

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：高砂宝来自治会

開催場所：高砂町公会堂

開催日時：平成 28 年 2 月 17 日（水）19 時 00 分～21 時 05 分

参加者：自治会側【地域住民の方 23 人】

市 側【染谷市長、三浦秘書政策課長、高橋協働推進課長、秋山協働推進課課長補佐、駒形秘書政策課係長】

内 容

① 柿田高砂宝来自治会長あいさつ

・車座トークに多数参加いただきありがとうございます。こうして市長さんと面と向かって、こういうところでお話ができることは滅多にないことなので、皆様から忌憚のない御意見を出していただいて、市長さんに快い返事をいただく。そんな感じにしていきたいと思うので、つっけんどんにならないように、和やかに、談話のようになるように協力をお願いします。よろしくお願いします。

②市長からの市政報告

■はじめに

・車座トークは今日で6回目となった。68の自治会を全て回るということではじめています。完了見込みは来年の2月か3月ということになっている。それぞれの地域に行くとそれぞれの地域の課題や要望など色々な話を聞かせていただいている。これは私にとって市政運営の礎となるものであるし、また皆様からいただいた御質問等に対して、この場でお答えできない細かなことについては、後日必ず返答させていただくということでお話をさせていただく。

■市政運営について

・この5月で市長になって3年になる。早いもので3回目の春となる。自分自身は、「変えよう島田」ということを、スローガンにして市長選を戦った。「信頼されるまち」、「安心実感都市島田」を目指すんだよということ、旗印に選挙戦を戦ったわけだが、私の役割がいくつかあったかなと思っている。一番最初に所信表明というものを、就任して1週間で6月議会を迎えた。慌ただしくその1週間の中で書いた所信表明の中で4つのことをお約束した。一つは「公平・公正で、市民の声が届く市政の実現」、二つ目は「市政の透明性を高めるための情報公開」、三つ目には、これからの時代において島田市が単独で生きられる時代ではないことから、志太3市、あるいは中部5市、県といった様々な形での広域の連携というものを模索しながら島田にとってよりよい選択をしていく「広域行政の推進」、四つ目には「財政の健全化」を目指すことで選択と集中を重ねながら、これから病院への投資等があるので、市民の皆様には大丈夫なのかと心配されないように、しっかりと財政の健全化を目指すと言った。

・これは、皆様が若かりし頃、「明日は今日より必ずよくなる。土地もこれからどんどん高くなるし、給料も必ず上がっていく。日本の人口も増える。都市

もどんどんも大きくなって、島田も次々に色々なことができる。」とと思っていた時代と、今はまるっきり裏側から見ているような社会になっている。

・私がよく書物を読んで、自分の市政方針の舵取りの御示唆をいただいているものとして、森昌也さんの書いた本がある。森さんは昭和 28 年に島田市長になった。その時に、「市民の手による市民のための市政」を実現するという事をお約束された。これはたぶんリンカーンの「ガバメント・オブ・ザ・ピープル・バイ・ザ・ピープル・フォー・ザ・ピープル」という言葉を引用されたのではないかと思う。そして、20 年間の市政運営の中で、島田を量的に発展させたというか、市民会館もできたし、クノールや紀文などの企業誘致もできたし、都市はどんどん大きくなった。非常に発展した都市になった。お辞めになる昭和 48 年、その時、森昌也さんはこんな言葉をおっしゃっている。「私は量的に都市が発展していくそのことを一生懸命やってきた。だけど本当に暮らしやすい、皆が安心して暮らせるまちというのは、その量的な発展の上に質的な発展を遂げたまちなんだ。その質的な発展とは何かを考えてもらいたい。」ということメッセージとしておっしゃっている。島田は小さくても、世界に誇る国際人なんだということもおっしゃっている。そうした森さんの時代を今はまるっきり裏側から見るような、一昨年に「消滅可能性都市」という言葉が出て、全国に 1,700 の自治体があるが、そのうちの 896 の街が 2040 年にはなくなってしまうんじゃないかというショッキングなレポートが出た。今、どんなに人口がたくさんある街であっても、そこに若い人が住んでなかったら、いずれは消滅してしまうというレポートだった。それから、瞬く間に日本全国で、人口の社会減、少子高齢化の問題が出て、国は地方創生という言葉をもとに、各自治体に総合戦略をたてるようにということが伝えられ、島田市も昨年「まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」をたてている。

・世の中が大きく変わっていく時代においては、昔は借金は次の世代に残しても、財政が豊かになっていくので返すことができた。これからの時代は、学校のように世代間で均等に負担できるものは別として、「あれやった。これやった。」ということ、自分の任期の中だけで考えられる時代ではない。自分たちが生きている時代のことは、自分たちで何とかしていこうよという考え方を持たなければいけない。島田市長は 10 年後の島田市のために、今何を選択するんだということを考えることが今の市長の役割になると思う。

・こうした 4 つの約束を地道に堅実に一生懸命実現してきていると思っている。これとは別な役割を持っていると思っている。一つ目は、病院の街中移転等も 3 年前の選挙の大きな争点になったが、様々な意味で市政を「リセットする。チェンジする。」ということがまず一つ目の私の役割。二つ目には、「市民の手による市民のための市政」の実現。強いリーダーシップだと言いながらも、「俺についてこい。」で何でもやっていたんでは、10 万人都市のこれからの豊かさはない。地域の方たちと、市民とどうやってこのまちをつくっていくのかということをしっかりお話しながら、市民の皆様に御納得いただける、納得していただけることも行政の役割だと思っている。これは、納得しないでやってきたことの「ツケ」がどれほど大きいものであったかと言うことを、この 3 年の間に、ひしひしと感じていた。三つ目は、自分がこの 3 年間、どんな気持ちで市政を担ってきたか、政治ってなんだということ。私は政治家としては素人だった。3 年やってきてつくづく思うことは、政治の原点は、「ここに暮らす人の命を守ること。」「社会的に弱い立場にいる人たちの生活を守ること。」なんだ、これが土台なんだと思っている。財政力をつけるために、稼ぐ力をつけなければいけないし、企業の誘致もしなければいけない。雇用も生まなければいけない。しかしこれらは政治の目的ではない。本当の目的は、「ここに暮らす人のために、暮らしやすい、安心して暮らすことができるまちをつくるか。」ということになる。島田市民の中には所得の高い方も大勢いらっしゃる。一方で、例えば年金だけを頼りにして暮らしている人が年々増加している。高齢者の一人世帯も増えている。それから、結婚しない人たちが増えている。年代に関わらず一人世帯が増えているという課題もある。人口

はずかに減ってきているのに、世帯数はどんどん増えてきている。というのが島田の現状となっている。人口は10万人ちょっと。世帯数は36,500くらいある。時代も変化していく中で、結婚している人が大体2人くらい子どもを産んでいる、島田の場合。みんな結婚したら島田の合計特殊出生率は県内でもトップレベルになるが、男性の生涯未婚率（一生に一度も結婚しない人の率）は15%を超える。6,7人に一人は一生結婚しないことになる。女性も一ケタ台ではあるが増えてきている。そういう方たちもだんだん年をとっていくと、島田市としてみんな考えていかななくてはならないことになってくる。こういった時代の変化の中で、ここに暮らす人たちの暮らしを守ることが一番、原点であると思っている。

・次に自分の役割だと思っているのは、人材育成である。役所に勤めている職員はみんな優秀だと私は思っているが、それでも自分たちが考えたことを自分たちの口で、発表して、提案して実行していく力を持っているかどうかということは、訓練されないとなかなかできることではない。「管理型から経営型」へ、一人ひとりがこのまちをどう経営していくのかということ、いつも部長たちに話をしているが、昔の行政は、例えば本通を、ここは商業地域、ここは工業地域、ここは一種住専など分けることによって乱開発を防いだし、規制して管理するのが行政の仕事だったかもしれない。しかし、今の時代の行政の役割は民間ができるだけやりやすいように、どうやったらお手伝いできるかといった規制緩和であったり、協働というか、地域にできることと、得意なことと苦手なことがある。それを一緒になってなることで、お互いのよさを発揮しながらできるのではないかとと思っている。簡単な言い方をすると、私はいつも思うのだが、行政がやる大きなイベントはその日はたくさんの人がある。しかしアスファルトに水を流すが如く、その時はたくさん流れるが染みとおらない。しかし地域の方たちが、半年もかけて準備をして様々にやってくださったことは、終わったあとも人と人とのつながりや、一生懸命がんばったことが自信になったり誇りになったりして根付いていく。しっかりと後に残る。そういうまちを残すためには、行政と市民がしっかりと連携をしてつながっていかなくてはできない。これは各団体と行政も同じ。島田市にも色々な団体があるがその団体と行政がどうつながるかということも含めて、協働のまちをつくっていかなくてはならないと思っている。島田市では、職員を国土交通省、県の東京事務所、県、被災地、早稲田大学のマニフェスト研究所、新たなまちづくりを研究するプロフェッショナル・スクールなどに人を送っている。3年送っているので28年度まで、来年度、4月になってやっと送って勉強させてきた職員が帰ってくる。市長は長い間には次々と変わっていく。しかし職員は40年間働く。やはり行政の職員が有能で色々な経験を積んで、自らの市を運営できるそういった才能を持ったら、島田は色々なことができるようになると思っているので、人を育てることに一生懸命やっている。それは、行政の中身だけじゃなくて、例えば、行政の中身では研修会をやったり、専門家や一流の先生を呼んで、行政に全然関係のない話を聞かせたり、あるいは退職する部長たちには、伝承講座の講師をやらせている。色々なことをやりながら、市の内部の人材を育成すると同時に、市内の若い人たちを育てたいと思っている。今、商工会議所の青年部、商工会の青年部、青年会議所の青年団体は、今まで棲み分けて活動していたが、この3月からシェア会議というものを開いて、一緒にやれることを探していこうという試みにもたどり着いた。

・島田のまちはまだまだ現役の社長さんたちが、60代、70代、80代でもしっかりしている。しかし、そろそろ若い40代、50代、あるいは30代に世代交代をしていく時期だと思っている。その世代交代ができることによって、街の中もまちづくりも変化してくると思っているので、例えば、行政が委員会、審議会において市民に入っていただく場合、その割合を大体50%を50代以下というふうにした。今まで、60代、70代が主だった委員さんたちは、いろんな御経験の中からのいい意見をいただく。年配の方々には行政が提案したとおりに「それでいいよ。」とまとめてくれる。しかし若い人は、「これではダメだ。」

と突っ返されるようなことが度々ある。若い人たちは一方で、自ら発信し、自分ごととしてすごく動いてくれて、行政の言うとおりにはないが、自ら街を動かそうという力がついてきている。そういう人たちを公共、行政に対する関心、島田に対する熱い、熱い島田を愛する気持ちを持った若い人たちをしっかりとつなげて育てていくということも私の大事な役割だと思っている。

- ・こういったことを基本に置きながらこの3年半やってきた。
- ・先ほど財政の話をしたが、今各自治体が総合戦略もそうだが、サービスの競い合いのようになって、例えば子どもの医療費をタダにしましょう。給食費もタダにした方がいいんじゃないか。ということ競い合う時代になった。今、島田市は子どもの医療費（15歳以下）を1か月に500円をいただいている。これは、所得の低い方からはいただいているし、まるっきりタダにすることがいいのかということについては疑問を持っている。タダだと言えばサービスは高いといわれかもしれないけれど、この500円の積み上げた1億円近いお金について、他から持ってこなければいけない。あるいは、ほかの事に使える部分をそこに回さなければいけない。そしてお医者様に安易に掛かることで大変混雑する。買い薬を買うよりも安いわけであるから何でもかんでも病院に連れて行けばいいというのは親を育てない。だから私は、子どもの医療費は500円をいただいている。給食費は、施設費も人件費も光熱費もみんな行政が出している。いただいているのは材料代だけ。しかしこの材料費としていただいている給食費は年間で4億円になる。これをタダにするというのは、やはりその4億円分、どこかを削ってこなければならぬ。あるいは、よそに回せるものを使えなくなるということ。だとしたら、給食費を自分の子どもが食べる材料費だけは払ってもらってもいいのではないかと私を私の基本として持っている。子育て支援を一生懸命やっているが、その私の基本姿勢はサービスにならないと考えている。サービスではなくて、本当にその子どもにとっていいことなのか、それが親を育てることになるのかということが、島田で生まれたことで子どもたちを健やかに育てるためには必要なことだと思っている。その代わりに、そういったお金を、学校現場の学校支援員（70人以上の支援員）を市単独で今、学校現場につけている。様々な課題を持ったお子さんが増えているので、ソーシャルワーカー等も市単独経費で何人も雇って、不登校だとか問題のある家庭に入らせたり、こういったきめ細かなことをやっている。
- ・島田が県内のどこよりも、親が必要とする、あるいは親にとって欠かすことのできないところを押さえながら子どもを育て、親を育てたいと思っている。
- ・高齢者に対してもそうで、高齢者支援について根本的に考えるのは、このまちで健康で住み慣れたところでずっと暮らしていただけるようにするために、どういう施策をうったらいいかということ。病院に入るその病院代や施設代を支援するのではなくて、元気でいられるための政策を支援したいと思っている。例えば「おおり」の1階には、高齢者のための運動機器（5台で600万円）は男性に大変人気で、よそは女性ばかり出てくるが、男性の方が多く出てきてくれる。平成28年度は金谷にも置くことにした。
- ・一人暮らしで不安がある高齢者の方たち約500人に登録をいただいているが、毎週電話をして、元気でいるか、困っていることはないかなど、安否確認を市の職員がしている。連絡が通じなかったり、SOSがあった場合には、必ず市の職員か民生委員が20分以内に駆けつけられる体制をとって見守りをしている。目に見えないことだが、安心して暮らせるための政策ということ、介護に進まず要支援の段階で皆さんから支援を受けながら、このまちで住み続けられるような、そういった支援をしていきたいと思っている。

これからの地域づくりについて

・高砂宝来の世帯数は昨年の12月31日現在で364世帯、人口が920人、65歳以上の高齢者が278人、高齢化率は30.2%。島田市の高齢化率は29.0%。
昨年の9月の敬老の日で調べた限りでは、75歳以上の高齢者は14,800人いた。これから、色々なことを考えていく時に、ある地域に行ったら、75歳以上の人たちに、例えばコミバスが通っていない地域では、月1回市民病院に行くお金を援助できないのか。というお話をいただいた。月1回1,000円の往復でチケットを出したとして、14,800人が月一回12か月いくとだいたい5億円くらいのお金がかかる。65歳以下でも身体の弱っている方もいらっしゃる。そうすると、どこで線引きをするのかという課題も出てきて、私が地域でお願いしていることは、中心市街地から離れたところでは、もし地元で地元の高齢者を病院に買い物に連れて行ってくれるのなら、皆さんがボランティアで運転していただけるのであれば、車と保険とガソリン代は市が負担することができる。お金は白タクになってしまうので取れない。地域にできることと行政がやれることをあわせたら、地域の課題解決は少しずつでも解決するのではないか、そういう街をつくっていきよというのが私の提案。湯日小学校という小さな小学校は複式学級になっているが、昔は放課後児童クラブなんかはいらなかった。しかし今は放課後児童クラブに通うお子さんがいる。一番近い初倉南小学校まで5km。湯日小学校の全校児童数は30人くらいの学校なので、そこに放課後児童クラブは作れないという中で、どうやって南小まで子供たちを毎日運んだらいいんだろう。行政は一時はタクシーを使うことも考えた。地元で相談したところ、地元の方々にはローテーションを組んで、迎えに行くのは親だから、送っていくことは一日一回だけだから自分たちで何とかすると言って、自分の車で子供たちを送ってくださっている。それに対して行政は、ガソリン代と車代をお借りするという意味も込めて、お礼のお金をお支払いしている。

・それぞれの地区の課題は様々で、解決の方法も色々だと思う。みんなで力を出し合えば、やることはいっぱいあるはず。それを一緒にやっていくことが、これからのまちづくりには大事なことだと思っている。島田のまちのことだけを考えるのではなくて、日本が毎年1兆円ずつ医療費が増えていて、このままでは医療費が持たなくて、2025年を目指して国は大きな医療制度改革を進めている。在宅へという流れ。1兆円ずつ増えていくという課題だけではなく、東京オリンピックが終わった後の日本の経済はどうなるのだろうか。あるいはオリンピック前に経済の腰折れするのではないかと、様々なことがいわれる時代であって、足元をしっかりと見た、地域経営、まちづくりをしていくことが私は土台だということを思いながら行政を運営している。場所によっては、行った先で「もっと派手にやれ。」とか「目に見えんぞ。」とか色々言われる。目に見えるのは簡単。目に見えないことを一生懸命やって、それを知っていただくことは難しい。しかし、皆様に御理解をいただく中で、島田はまさに森さんが言った、キラリと光る、世界に誇れる街を作ることができると思っている。信念に基づいてこのまちの将来の舵取りをしてまいりたいと思っている。

・時代が変わったということについては、皆様も頭では十分に分かっていると思うが、まだまだ先々に行くと、「あれをやってほしい。この道路を大きくしてほしい。」色々な補助金がらみのお話をたくさんいただく。しかし道路一つとっても、国も平成12年頃には、全国の自治体に道路をつくる補助金だけで15兆円以上のお金を出してくれていた。これが、26年度も27年度も当初予算についているお金は5兆1千万円、3分の1となっている。県の方も、35の市町に道路をつくるための補助金で、同じ頃165億円を超えるお金を出してくれていた。しかし、去年も一昨年も当初予算のベースで46億円くらいとこちらも3分の1となっている。社会資本整備総合交付金というものがあるが、例えば、本通御飯屋線の歩道を整備したいからといって、やっと3年がかりで

事業実施にこぎつけた。今年やりたい事業でも、すでに継続している事業を優先しなければならない、2、3年待ってもらって事業に着手できるといった状況になっている。一方で公共施設は老朽化し、道路も古くなって水道管も古くなって、長寿命化といって新しいものを造るのではなく、今あるものをどうやって長持ちさせるのか、どうやって更新していくかということにも、すごくお金がかかる時代になった。国もそのようなものに3割、4割のお金を割くようになった。世の中が大きく変わった、分水嶺を越えて違う流れになったときに、これからの新しい島田のまち、豊かさの価値観、こういったものをみんなで共有していかなければならないと思っている。

■市民会館について

- ・市民会館については、皆様に大変御心配をおかけしている。設計は昨年11月の補正でつけたので、新年度の当初予算には、解体費をあげている。5月頃から解体をはじめていく。10月を目途として、あそこを更地にして舗装をし、当面の間は、駐車場とイベント広場、中心市街地の方々の災害時の避難場所として使えるようにしたい。
- ・では、市民会館はどうするんだということを言われると思うが、建築の要望（1,700人を超える）もいただいている中で、市民会館の閉鎖する前の5年間の稼働率を見ると、1年のうちに練習日も含めて70日、本番では年間30日くらいとなっている。
- ・これに対して、同じものをつくとすると、70～80億円のお金がかかる。
- ・この2年間、市民会館の解体が遅れたこと理由は、市役所の庁舎を建替えるのなら、今の敷地しかないと思っている。国は壊して新たなものをつくるならば補助金が出るが、今あるものを壊すだけでは補助金はない。できれば平成32年度の合併特例債の期限までに借りて建て直せば財源的にも有利だとは思いますが、市役所が建てられるのかを定めないうちは市役所を壊すのは大変だという判断の中で、去年の3月市役所の庁舎は築53年になるが、これからの島田が大きく発展していくために、投資をしているいろんなことをやりたい、そっちの方が庁舎よりも優先だと思う。新病院の医療機器は50億円になるが、5年間で償還しなければならない。建物は30年で償還する。このため、最初の5年間は返済額が大きくなる。同じ時期に市役所の庁舎を建てたら、今度は自主財源として投資的経費、大きな開発などに使うお金に余裕がなくなってしまう。したがって、庁舎の建設はしばらく待つ。耐震は十分大丈夫であるということが検査でわかっているので、市民の皆様は年に数回しか訪れないところなので、今のままでやっていくこととしたので、市民会館は今年壊すこととした。解体だけでも約2億円くらいかかる。市民会館の今後については、この次に市役所の庁舎を建替えるときに、もう一度市民の皆様と一緒に考えたい。その頃には「プラザおおり」も30年の年月を越えるものになってくることから、また新たな課題も生まれてくると思うので、みんなで考えていきたいと思う。

■新病院の建設について・医療制度改革への対応（地域医療の充実に向けて）

- ・平成27年度に基本計画を策定し、平成28年度は基本設計に入っていく。
- ・第一次審査が終わって6者残っている。第二次審査については、3月13日（日）午前9時から「みんくる」で、一次審査で残った病院の設計の提案（プ

ロポーザル)を一般公開で行う。市民の皆様にも、是非、今の新たな病院のコンセプトや工夫がどのようにされて提案されるのか聞いていただきたい。一つの提案に概ね1時間はかかると思うので、一次審査にいくつ通るかかわからないが、朝9時から順次やっていく。議員の皆様、市の幹部職員にも参加してほしいし、市民の皆様にも是非、聞いてもらって、どういう病院ができるのかという話を共に共有していきたいと思っている。プロポーザルにかかるものは基本的に公開で行うこととしており、これが先ほど申し上げた情報開示の一つである。どこの業者も提案に出してくるまでに300万円から500万円のお金をかけて提案書をまとめてくる。

・新病院は、病床数を445床にし、今の救急棟の東側に建てるということが基本計画の中で示されている。軟弱地盤ではないかという点については、ボーリング調査の結果では、砂地ではなく、粘土質であった。砂地は液状化するが、粘土質で、岩盤までの距離が少しあるのでくい打ちや地盤の強化の必要はあるが、県の第四被害想定でも液状化しないということになっている。今の計画では、7、8階の建物と屋上にヘリポートを持つような病院をつくりたいと思っている。今の救急棟と健診棟はまだ新しいので残していきたい。救急棟は新しい病院ができた暁には、透析する患者さんが増えてきているので、大規模な透析センターにしたいと思っている。北側の人間ドックをしているところは、28年度から「24時間訪問看護ステーション」をはじめたいと思っている。島田の医師会の先生は40から41人くらいであるが、うち、往診に応じてくれるお医者様は9人と聞いている。しかし、この先生方も高齢化が進み、いつまでも往診ができるかどうか分からない中で、真夜中までやるということでは疲弊して昼間の診療もできなくなってしまうというお話もいただいている。先生方の指示に従って、医療行為ができる看護師が24時間、皆様のごとくに伺って医療行為をする、必要であれば市民病院に入院していただくという体制をとるとというのが「24時間訪問看護ステーション」。これは、国が大きな在宅への流れをつくってきている。これまで介護保険ができて、みんな施設に入って、みんな最後の看取りを施設や病院ですることが当たり前のようになっているが、これからは大きな在宅の流れへということになる。

・長く病院に入院していると、医療点数も下がってしまうので、平均の入院の日数を今よりも4日くらい減らしたいと国の方も言っている。厚生労働省案では、病院丸ごと機能別ということを行っている。すなわち、島田の市民病院は急性期の病院。慢性期の病院はどことこの病院。回復期の病院はどことこの病院というように、患者さんが一つの病院で、急性期を抜けたら回復期になってリハビリやって慢性期に入ったり、一つの病院の中で回っていた。その患者さんを、今度は、病院ごとに移していこうという考え方を持っている。これは現実的ではないと私は思っている。年配の方は悪いところは一箇所だけではない。そうした時に、簡単に病院を点々とすることはそう簡単ではないと思う。今は、島田の市民病院も、病院丸ごと7:1といって、急性期の病院の指定をいただいているので、患者さん7人に対して、看護師を1人以上つけるという急性期の病院のシフトで診療報酬等もいただいている。今度は、病棟別になる。外科の病棟、内科の病棟というふうになると、今ある療養病床(35床)は、外から入院してくる病床ではない。これまでも転院のつなぎで使っている病床となっている。長期に入院している方は1~2人いるが、この方々はこれからも市民病院で診ていく。新病院では、転院までのつなぎは一般病床で診ていくということになる。こうしたことで新病院には療養病床を設けない。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■公共下水道の整備計画について 現状の下水道は、宝来町側幹線道路は敷設済みであるが、枝道に敷設されていない。同下水道について、高砂町側は未整備である。これらの理由により、生活排水と雨水排水が農業用水路を経由して排水されている。 以上について公共下水道、都市下水路、農業用水路のそれぞれについて整備計画と実施時期について御説明いただきたい。</p>	<p>●この地域については、単独浄化槽、汲み取り式の御家庭が多く、それが大体9割を占めている。単独浄化槽も何年かに1回はメンテナンスしないと汚水が出てしまって、そのメンテナンスもできないというお宅もあって汚水やにおいなどの苦情もいただくことがある。多くの家庭からの汚水が側溝に流れ農業用水路を経て排水されており、公共下水道整備を早急に推進したい地域となる。平成27年度に、当地区の現状を把握するための基本計画の委託業務を実施しており、平成28年度は下水道工事を行なうための設計業務を発注したいと思っている。工事にかかれるのは、平成30年度には当地区の下水道整備工事に着手したいと思っている。区画整理された場所と、されていないこちら側とある中で、このままの状況で下水道整備をするということは、なかなか区画整理も難しくなるということ。下水道工事を促進しなければいけない時期に促進しなかった、区画整理とともにできなかったという、痛し痒しのところはあるが、課題はあるかなと思っている。国は公共下水道については、長寿命化や更新のための補助金は出しても、新たに整備するようなどころにはなかなか補助金が出ない。もう公共下水道の整備というのは、前の時代に終わっているでしょうというのが全体的な流れの中で、島田はまだ進んでいない。これは、ある時期政策的に公共下水道より合併処理浄化槽という判断をしたんだと私は思っている。その結果が、県内でも公共下水道の整備率が低いまちということになってしまった。これを今からやるというのは大変難しいことなので、ここはまだ下水道が整備できる。しかし市内全域を見れば、合併処理浄化槽を使っただけという地域が増えていくということになる。</p> <p>●都市下水路については、高砂町、宝来町地内における都市下水路（市街地の雨水を排除するために速やかに河川に流れるようにしていくための排水路）の整備予定は、現在はその計画を含めてない。</p> <p>●農業用水路については、農業用水路に排水されている現状があるが、あくまで農業用なので生活排水や雨水排水対策として農業用水路を整備する計画はない。</p>
1-2	<p>■どうして今頃調査をするのか。整備計画を再度調査を行ったうえでやるということではなくて、もともと整備計画はあって、今後こういうところに整備していくが、どうしてここまでできていないのかということ振り返りながら、進めていくというのが普通の方法だと思う。かつて下水道の計画があったと思う。それを再度また整備しなおしてという時期ではないと思う。</p>	<p>●もともとあった計画のとおり進めている。27年度の基本計画をしたのは、業務委託に出したということで、どういうふうに排水をしていったらいいかという、その業務委託を出しているの、本来はこのまちの中、例えば下水道の処理施設は1棟しか建っていないが、本来はあれを何棟も建てる計画の中で認可をとっている。しかし1棟のままずっと来てしまったということ。これは相当前に、公共下水道の整備よりも、目に見える部分に整備を優先するという政策</p>

		<p>的な判断があつて、公共下水道整備が遅れてきたと思う。しかし現実には様々な課題がある。そういう中で、市の予算の中で順番にとにかくやれるところをやっていくということで、平成30年度からこの地域はやつと工事にかかれる段階にきましたというお話をしている。専門家に聞くとこのまちの中も傾斜があつて、部分的にはポンプアップして出さなければならないところとか、そう簡単ではないという話もある中で、設計のための計画の業務委託を実施したということであつて、もともとの計画に沿つてやっている。</p>
1-3	<p>■やられていることはよくわかるが、よその都市に比べて格段に遅れている。子どもに対して、なんで勉強しないんだという、私だって一生懸命やっているという。一生懸命やっていて、100mの駆けっこでも、一生懸命みんな駆けっこしているんだけど、1番から10番までである。10番だったら、1番の走り方を見習ったらどうだろうと言つたことがある。島田市がそんなに遅れているのであれば、もう少しよそ並みのテンポを取り入れたらどうか。いろいろな問題が山積しているんでしょうけれども、下水道というのは、先ほど市長さんがおっしゃつた安心、安全の生活基盤だと思う。環境衛生だとかも考えて、できるだけ早く進めていただくようお願いしたい。</p>	<p>●市はある段階において、公共下水道の進展ということが政策的になかなか進まなくなつた。前の市長もやつたし、私もそうだけれども、合併処理浄化槽の普及ということに補助金を出して、できるだけそれぞれの家ごとに合併処理浄化槽（生活排水も汚水処理も一緒に）で流すというものの普及に力を入れてきた。3. 11のようなことが起こつた後においては、公共下水道よりは復旧が早いということも一つある。公共下水道をつくつた時に、家に引き込むために大変お金がかかる、水道料金プラス下水道料金ということで、かなり高くなつてしまつて、大変だよというお話だとかが様々に聞こえてくる。今の道路のままの中で、埋設していけば、大きく区画整理していくことはなかなか難しいということも現実。そうした中で、この地域の公衆衛生だとか水質の汚濁も守らなければならないし、悪臭だとか汚水だとかのお話を伺う中で、やはりここは計画をきっちり持つて、ここはまだ早めなほう。やっていくことを決めているので、是非、遅れてしまつたということに対しては、何とも言いようがないが、言い訳はできないが、30年度からの下水道の整備、工事をこのお約束の年度にできるようにやっていきたいと思つている。</p>
2-1	<p>■子供広場の樹木管理について 現状では、子供広場の樹木の老木化が進み、倒木の危険がある樹木がある。前は、すぐやる課（現土木管理課）でやつてもらつたこともあるが、公園は管財課（現財政課）の所管で、管財課に行けば土木管理課だと言われて、ぐるぐる回つてどこでやるかもわからない。すぐやる課というのは、とにかくどこかにまわす前に一回見に来て、危険度があればすぐにやつてもらいたい。ということで、町内の子供が遊ぶところなので、特にそういうところは早急に対応していただきたい。</p>	<p>●どこに持つていったらいいのかわからなかつたというのは、大変申し訳なく思う。本来きちつと理由と状況をお話をしなければいけなかつたことなので、申し訳なく思う。今年度も既にやっているが、28年度からは特に力を入れながらワンストップサービスをやつていこうと思つている。ワンストップサービスというのは、自治会の担当は協働推進課でこの協働推進課がワンストップで受ける。公園のことでも、他のことでも、ここで言つていただければ、必要などころにこちらから書類を回すし、職員に来てもらつて話をする。このワンストップサービスをきちつとやつていくので、今後についてはそこを御理解いただきたい。お尋ねの公園については地図上で見た。高砂町のこの公園は、島田市の所有の土地であるが、それを無償で地域に貸し付けを行っているという公園となっている。原則として、草を刈つてもらつとか、除草だとかも含めて、維持管理を地域の方をお願いしているという公園。それは市内の色々なところによくあるんで、その公園については樹木の管理も町内会をお願いしていると</p>

		<p>というのが実態。なので、市のどこに言って切ってくれではなくて、切ることも含めて御町内をお願いしたいというのが基本となっている。お気持ちはすごくわかって、それに対してこういういい方は大変失礼なのだが、それぞれの御町内で樹木を伐採したりしてもらっているの、何とか皆さんの御力でお願いしたい。</p>
2-2	<p>■できることはやりたいと思っているが、高齢化の状態、小さな草とか1mくらいの枝だったら取ることは可能だが、高い樹木（3～4mくらい）、根元がないので、中学生くらいの子どもや高齢者でも幹に力を加えれば倒れそう。怪我をしたら補償はどうなるのかということもあるので。</p>	<p>●原則としては御町内の対応をお願いをしているが、皆さんに危険があるということでも困るので、一度職員に見に来させる。皆さんにやってもらうことがあるのかも含めて現場を見てからの判断とさせてほしい。【検討事項1】</p>
3	<p>■アピタ交差点の渋滞緩和について 日清紡地区における店舗拡大に伴い、アピタ交差点付近の車両交通量が増大して来た。このため時間帯によっては、1回の信号で滞留車両が通過できず、渋滞状況となっている。また、信号機の動作を変更されたが、高齢者が横断するための時間が不足している。以上について具体的な対策と実施時期をご説明いただきたい。町内会組織とは別に、南口の促進協議会があって、組織内部で協議し、交通量の緩和についても議論している。蓬莱橋の交差点の道路の拡幅、この南北道路もある程度整備をいただいたが、交通量が増えているので危険となっている。踏み切りも狭い。この辺についても対策等について伺いたい。</p>	<p>●蓬莱橋の交差点改良は、あそこを拡幅していく計画はある。皆様に直接影響のあるところでは、アピタの前の屈曲した交差点を改良するというので、平成27年度に用地買収に入っている。完了年度は平成31年度を予定しており、この交差点を整備することによって円滑な車両通行の確保と歩行者の安全の確保を図っていきたい。平成27年度から事業に入っているが、皆様の目には見えないが、平成31年度の完成を目指して進めているので御理解をいただきたい。 ●御高齢の方が横断するのに時間が不足することについては、信号のことについては、信号を付ける付けないも時間が長いも短いも含めて、行政は警察にお願いするしかない。決めるのは警察。是非私の方からもお願いをするので皆様の方からも平成28年度の自治会要望に含めていただくことで、皆様の声ということで警察の対応を求めていくことでお願いできればと考えている。</p>
4	<p>■今の高砂の交差点の渋滞について、あそこに流れ込む車両の数が多いため渋滞になるわけだが、その対策として通過車両をできるだけあその道を通らないで他に流すという方法を考えないと基本的には流量は減らない。信号の問題もそこから来るそこを通る車の量によるわけなので、その量を減らすためには、土手の道路にできるだけ車を流すという方法を考える。アピタから出てくる車両もできるだけ土手の道路に進んでもらう方法をとらないと交差点の交通量は一向に減らないと思うので、そのへんの対策も含めて、今の蓬莱橋のところの拡幅もお願いしたい。</p>	<p>●蓬莱橋の交差点改良は計画している。それと同時に、蓬莱橋は平成28年度にまちづくり協議会をつくって、地元も要望も聞きながら、遅くとも29年度、できれば28年度のうちに、物品販売所とお休み処を造りたいと思っている。これは、長いこと国土交通省の規制が河川敷の占用許可の問題があっただけで、時代も変わって、国も規制緩和を意識するようになった。こうした中で、ミズベリングという事業を使って、地元の皆様と一緒にやるということが条件になるが、建物の建築が許されるということになったので、できるだけ早く物品販売所とお休み処をつくって、トイレ等も順次改修もしていきたいと思っている。</p>
5	<p>■第1相良街道踏切について 現状では同踏切内の道路相当幅が狭隘なため、踏切内において北進と南進の車両はすれ違いが出来ず、交互通行を行わざるを得ない状態である。遮断機が下りている時間を計ったら、川</p>	<p>●私がJRに話をする機会があったらしておく。本当にJRというのは難しい。駅舎を建てるのでも、市が全てお金を出すのに、色々な条件や使う業者までJRが決めている。ここの踏切についても、踏切が狭いとか遮断機が下りている時間が長いとか、色々な話があって、高架にするか下を通るかという大規模な</p>

	<p>崎街道の踏み切りは50秒程度、ここの相良街道では、上り（島田始発）が2分くらい遮断機が下りている。しかも、南進が行ってしまったら北進が行くというように、交互に通行しているが、その間にまた遮断機が下りてしまう。夕方などは、学生さんも自転車で通過するので、自転車が行ってしまわないと車は通れない。遮断機の下りている時間の短縮についてはどうか。</p> <p>以前はもっと短かった、4～5年前に極端に長くなって、我々もイライラするが、緊急自動車もイライラすると思う。</p>	<p>工事になる。そうすると本通からアピタまでの距離を見ると、そこをまたぐようなものが造られ、できてしまうということになるが、その間には、これだけの家があるということになると、現実的には大変難しいことだと思っている。</p> <p>J Rの方に拡幅する要望は、これまでもそういう話はしているし、ここだけではなくて、御飯屋の踏み切りも六合の踏み切りも大変厳しい状況で、現状のままということになっている。皆様からいただいた話だけではなく、御飯屋の踏み切りも六合の踏み切りでも同様の話はいただいている中で、今後この課題についてはJ Rと話し合いの場を設けていきたいと考えている。</p>
6	<p>■お話を聞いて、お金がない、お金がないと言われるが、テレビを見ても静岡空港に中国人が大勢きている。ここは今まで通過点であったが、藤枝の玉露の里に行くルートができたそうだ。藤枝に行くのだったら、島田でもお茶の郷があるので、あそこに行くルートをつくってもらえれば、中国人が爆買いしてくれるかなと思う。</p>	<p>●玉露の里のことが色々報道されるが、お茶の郷は4割が中国人のお客様となっている。全体の来訪者は玉露の里よりもお茶の郷の方がずっと多い。お茶の郷も免税店になっていて、外国からのお客様は免税ショップで買える。お茶の郷は6月1日に県に移管することを決めた。知事はよく「お茶の都」「花の都」と言われる。「花の都」は浜松につくったので、「お茶の都」は是非島田にという話をさせてもらう中で、県が買い取るということになった。6月1日に移管後は、県のほうでリニューアルをして、グランドオープンを迎えるということになる。リニューアルの規模はまだ決まっていないので、いつグランドオープンできるか分からないが、29年度中には間違いなく「ふじのくに茶の都ミュージアム」という名前で新しくなる。</p>
7-1	<p>■島田は和菓子がおいしいと言われている。体験型の和菓子工房みたいなものがどこかに出来ればいいなと思っている。箱物を作るのではなく、各店舗でそこで体験できるような、そういうものができたらいいなと思う。中国人などは着物を着たいという人が多いので、そういうものを体験できて、まちをふらふら歩くようなものを整備してくれればいいなと思う。</p>	<p>●私も同じことを考えた。島田は和菓子屋だけでなく呉服屋も大変に多い。ちょっと着付けをしてもらって、いい着物じゃなくていい。ちょっと街中をそぞろ歩きして、中国に行くとなりきり写真館とって、ポーズをとって写真集を作ることが中国人は大好き。島田の写真屋さんに撮ってもらって島田の風景を先取りした（お茶の時期、富士山の背景など）島田の風景とあわせて、撮った写真とセットにしてデータを渡せばいい。帰ってから写真集をつくるから。そういう商売がいいと思って呉服屋さんにも話しをしたが、値段的なことや、京都などでは5,000円くらいで、一日安い着物だが着せてくれてそぞろ歩きができる。そういうことが、このまちでできたらいいなとずっと思っている。</p>
7-2	<p>■島田の呉服屋さんの着物は高い。だから、各家庭に眠っているような着物、普通に着れるような着物はあると思う。それをちょっと提供してくれれば、もっと活性化すると思う。</p>	<p>●御提案はそのとおりだと思う。家に眠っている着物もたくさんあるだろうけど、誰がそれを集めて、最初はボランティアでもお金は入ると思う。それをやるということであれば、それを広告にして空港だとか旅行代理店だとかそういうところに流すことができる。旅行代理店に流すには半年前でないとパックの中に入っていない。仕掛けはできる。アイデアは持っている。じゃあ誰がやるかというところが今うちのネックになっているところ。</p>
7-3	<p>■広報で流してくれれば。</p>	<p>●着物は集まるかもしれない。それを誰が管理して、誰が着付けをしてあげて、毎日のお客様に対応してくれるのか。</p>

7-4	<p>■借りたい人がいれば、一週間前とか10日前とかに電話をして、着物を持っている人の家でもいいし、ボランティアでいいから着付けをしてやって、一時間でもそれくらいの時間で回ってもらうことができると思う。</p>	<p>●前もっての予約は難しく、ルートインに泊まって、こんなのあるんだったらやってみよう、飛行機の時間までの間に3時間あるからちょっとやってみようか、など今やりたいということにどう対応できるかということと、ものすごいドタキャンとか平気です。日本人のように予約を入れてその時間に来ると言うことが難しい中で、これを軌道に乗せるのに、誰がどう動くのかということが課題。</p>
8	<p>■4月から広域消防が始まると聞いているが、消防の指令所が静岡になって無線が来ると思うが、静岡から島田に連絡する内容が何々町何々番地ではなくて、島田市何々町と言わないと指令所では分からないという不安な声を2, 3聞いているのでお尋ねしたい。PRも必要。</p>	<p>●私も新たにできた広域消防の119番を受け入れる指令所を見てきた。大型のスクリーンの中に、皆さんのお宅（自宅のお電話の局番で）の地図が大写しに出る。携帯でもその受信のエリアのところが入っている。一斉に消防の出動指令が出る。アナログからデジタルへの切り替えは2月3日に行っていて、広域消防が正式に始まるのは4月1日だが、すでに島田の消防署員（6人）が向こう（静岡）に行き受付けをしている。交流もあるが、基本的には島田の生え抜きの者が28年度も島田の消防署にいるし、そういった体制をとっている。静岡市に広域消防を業務委託するという形にはなるが、年に3回はトップ同士が顔を合わせて、課題を整理したり、お話をしながらやっていくこともお約束している。これによって静岡市消防本部は、消防隊員が1,000人規模の消防署になる。島田に配置される隊員の数も増え、車両等の装備が最新のものになる。ドクターヘリ等今までなかった機器も使えるようになる。特殊な化学薬品によるテロ、爆発などにも特殊訓練を受けた消防署員を派遣することができるようになるなど、私も訓練をみたが、最初は広域で大丈夫かという不安も持っていたが、少なくとも指令業務のところでは滞りが出ることはないと思っている。これまでは協力要請をしないと他市、他町から応援が来なかったが、これからは、島田に大きな事故があれば、周辺から何の連絡もせず応援隊が入ってくるようになる。代わりにうちは、沿岸部にもしものことがあれば市の方から助けに行くということもやっていく。PR等のパンフレットも作ってあるし、これからも広報でも取り上げていくが、皆様に安心していただけるようにさらに広報に努めていく。</p>
9	<p>■蓬萊橋の整備で左岸の整備は実施するという話をいただいたが、うちの町内は1年に1度イベントを行っており、右岸側には原の権現さん（旧権現荘）がある。年間10万人が蓬萊橋を訪れている中で、橋を渡ってそのままお帰りになる。上につなげて権現さんの周辺を整備してもらって、車で左岸側で降りて、右岸側で帰ってもらうとか、上まで上がって富士山を見もらうなどお金のかからない方法で、上の整備を優先順位はあるとは思いますが御協力願いたい。</p>	<p>●これは課題として認識していて、左岸側に今回茶店等をつくる計画があるが、行った先に何も無いということやずっと言われていて、ハイキングで原に上っていくのにも茶畑はきれいだが、登るのには大変である。権現荘跡地を駐車場にしたという御提案もいただくが、右岸側から下りて、橋を渡って左岸でバスに乗ればいいじゃないかという御提案もいただくが、結構な坂道でバスは下まで降りて来れない。普通の乗用車も何台もたまってしまうと方向転換できないくらい狭い。こうした中で、上に駐車場をつくっても、女性がヒールみたいな靴を履いていたらとても降りるのも登るのもできないということで、蓬萊橋</p>

		<p>を渡る前に疲れてしまうことになってしまうので、そこが一つ課題かなと思っているが、百人会議の観光部会の人たちが右岸側で茶店をやってくれたり物品を販売して効果をあげている。遠くからのお客様もいるので何とかしてみたいと思うが、河川敷の問題もあって向こう側に茶店を造るということは、なかなか難しいという状況である。新たに茶店だけではなく、勝海舟の銅像等も置こうと思っている。牧之原台地を開拓した中条景昭等の幕臣をこの牧之原台地に入植させたのは勝海舟の指示によって彼らは開墾をした。最近勝海舟が彼らを励ました涙が出るほど、胸が熱くなるような手紙が千葉県で見つかった。そんなものを合わせて、勝海舟が台地に手を広げたような銅像を置きたいと思っている。</p>
10-1	<p>■避難所の運営について 避難所は第三小学校という意識が強いが、第三小学校は地震の時のみの避難所となっている。昨年の台風襲来に際し、避難指示が出され、高砂町内会においても、当日早急に高砂公会堂を避難所として開設した。避難所で生活するための用具は一つもない。第三小学校に用具を取りに行かなくてはならない。第三小学校は校医が中学校区単位になったので、お医者さんがいない。このところは中学校になると、第一中学校と第二中学校と分かれるので、両方が避難所になる。ここから一中までと二中まで同じくらいの時間となると思う。30分～40分はかかる。車は使えないとなると、ここが避難所となると避難所として運営するための資材(毛布、フロアマット、衝立等)は用意出来ないの、市から貸与をしていただけるのか、自治会で整備をしなければいけないのかを伺いたい。</p>	<p>●お医者様がなくなったというのは救護所のことであるとあると思う。救護所もお医者様の人数がいなくてできない。救護所は12箇所あったが、12箇所にお医者様を派遣することはできないので、6箇所にまとめてそのかわり手厚くして機能する救護所にした。避難所はこれまで大規模地震災害を想定して避難所を指定してきた。小学校やその体育館となっているのはそのため。ところが一昨年の台風18号、19号のときに、私は避難指示は出していない。避難勧告を出している。避難勧告の先にあるのが避難指示。避難勧告を出して思ったのは避難所には職員を派遣する。避難指示を夕方6時にだそうと思ったら、午後3時の時点で私が判断して内部的に発信していなければ、午後6時に避難所を開設することはできない。そこに人も出して、鍵を持ってきて、全て開設の準備をする時間が3時間かかる。早い段階で行政側は判断して指示を出しながらやっている。大雨のとき、台風のときは遠く離れた避難所に逃げるよりは、水が出る場所であれば2階へ、がけ地であればがけ地の反対側の2階へというのが一番最初。それでもなお、危険であると言うことであれば、早めに近くの公的な施設に逃げていただきたい。それがこの公民館の開設だと思う。この公民館は公的な避難所でないため、行政の職員は来ていなかったと思う。毛布もなかった、何もなかったという中で、災害の規模にもよるが、台風で大雨で浸水しているというような場合には、市役所の方に電話を入れていただければ、毛布だとか食料だとかは私どもの方からできる限りの対応をさせていただきたいと思っている。大規模な災害になると、第一次避難所と指定されているところに物資は送られていくので、ここには物資は到達しないので、ここから取りにいったらなければならない。この地区の公会堂に物資がないということについては、「自主防災組織育成対策補助金」を交付しているので、補助金を活用して事前に公会堂などに資機材や食料等の備蓄をしていただくことで対応いただけるとありがたい。第一次避難所の体育館の固いところで寝ること、テレビも</p>

		<p>ないことは苦痛。公会堂であれば、テレビも大体ある。座布団、和室などもあるかもしれない。雨で避難する方はそんなに多くはないので、近くで安心できる場所に避難するというのが一番賢い方法だと思う。大雨になって逃げられない、危ないという状況になって避難するのではなく、早めの避難、危ない状況になってきたら2階の安心な部屋に移るというようなかたちで対応していただきたい。大規模地震の時には、野外で皆さんが集まる場所があると思う。隣組の人が集まって安否確認して、皆がまとまったところで避難所に向かうということになるが、それも家がつぶれて、住めなくなった人、これからの余震で家が壊れそうな人。そういう人だけが避難するのが避難所となっている。基本は我が家で暮らす。我が家での備蓄、家具の固定、ガラス飛散防止フィルムなどをやって、避難所の生活は大変厳しいので、避難所に行かなくても暮らせるような体制を各地域でたてていただきたい。そのために、昭和56年より前に建てたお宅であれば耐震診断を無料とする。耐震補強が必要である場合はその補助金もある。それも難しいということであれば、6畳間の中に2人がベッドをおいて寝られるシェルターが30～35万円である。寝るときだけでもその中で寝てくれば、寝ている間につぶされることもなく、今の横の部屋にあれば、何とかそこに逃げ込めば、家が壊れてもそこは安全なので、そういったものもあるので、いろいろと御相談いただきたい。</p>
10-2	<p>■水害のとき、公会堂のフロアが一般家庭の座敷よりも低い。地区の家庭よりもここが創めに水がつくのではないかと心配する。</p>	<p>●この玄関に土のうを積んで入らないようにすること。土のうの備蓄等もできる。眞鍋（まなべ）という危機管理部長がいる。部長が各地区に伺って、それぞれの地区の課題だとか、避難計画をどのように立てたらよいかとか、アドバイスを土日返上で地区を回っているの、是非、眞鍋を呼んで、この地域がどういうことが危険なのか、対策が必要なのか皆さんで聞いていただければと思う。</p>
11-1	<p>■町内防犯灯について 防犯灯のLED化で蛍光灯は製造されていない。専門家に聞くと機器の耐用年数は15年と聞いている。一番最初につけた機器でも3、4年経っているので、うちのところで防犯灯が50灯くらいあるので、10年間で全数LEDへの更改を進めているが、現在の蛍光灯機器の劣化状況から見ると、今後10年は耐用年数が持たないと思われる。このため、LED化促進のための補助について、消費電力料金の減少と相殺相当の補助金増額を検討出来ないか。せめて6～7年で更改を終わりたい。</p>	<p>●高砂町内会さんでは、電気料金の補助の内容から、現在、町内に48本の防犯灯があると思う。蛍光灯のところはまだ33本くらい残っているということできている。高砂町内会の個別の状況で申し上げると、現状での電気料金が年額157,020円で、市からの補助金額は30,300円となっており、実質町内会の持ち出しは126,720円となっている。仮に、20ワットから40ワットの蛍光灯（33灯ありますが）、この全てを10ワット以下のLED防犯灯に取り替えた場合、電気料金は年額87,528円で、補助金額は17,100円であるため、実質の町内会の持ち出しは70,428円となる。これにより、先ほどの蛍光灯の電気料金とLEDの電気料金には年額56,292円の差額となる。一方、LEDに取り替えるために必要な経費は、1灯28,000円として、33灯で924,000円となる。市からの補助金が半分の462,000円となるので、町内会のご負担は462,000円となる。</p>

		<p>計算すると、8年で元が取れるということになる。このことから、設備投資は一時的には多くの経費が掛かるが、長い目で見れば、早く取り組んだほうが得という試算になる。なお、補助金額は近隣他市に比べ島田市は補助率等も良いことから、今後補助金額の増額等は考えてない。</p>
11-2	<p>■補助金の増額が一つのLEDに対しての補助金を増額してくれと言うわけではなくて、消化する個数を増やして欲しいということ。今、我々は（年間）5灯で計算している。それを8灯とか10灯とかにしてほしい。</p>	<p>●要望を毎年聞いているので、要望の数量をあげていただければと思う。それをもとに我々が予算要求する。 (協働推進課長回答)</p>
12-1	<p>■今年は3年に1度の祭りだが、市長が島田から市外に出て行ったときに、島田といったら一番初めに何とおっしゃるのか。</p>	<p>●ここは、江戸時代の息吹が流れている街だと思っている。お菓子屋さんや呉服屋さんがある、長いこと三味線や長唄や詩吟などをやっていた方が多い。大祭を誇りに思っている街でもある。島田大祭の中身と伝統と内容を本当に知れば、島田の人みんなが世界に誇れる祭りだと思っている。</p>
12-2	<p>■市の議会で、大祭について2人の議員が質問をしている。他の質問に対しては、当局側は「やります」とか「やりました」とか答弁しているが、大祭の答弁は「検討します」とか答弁が弱いのは、観光協会や保存会がやっているからなのか。市が関係ないから弱いのか。祭りによるメリットもあると思うが、1,000日に2～3日の祭りだからなのか。</p>	<p>●今年島田の茶まつりや大祭等があるが、このまつりに1億円以上の補助金をつけている。一番大きいのは大祭の補助金。他の事業については市が「ああやりました」、「こうやりました」といえるのは、行政の事業であるから。この大祭は大井神社と大祭保存会の方たちが、全部仕切っている。うちは補助金をお出しするだけで、直接的には、例えば本陣入りをどこにするかも決められない。いつの時間に何を出すかも行政は何もいえない。お手伝いをする立場にある。人もない、金もないといわれる中で、行政にできることは精一杯させていただくが、実際その補助金も観光協会を通してお渡しすることになるし、お祭りを仕切るのは実行委員会の皆さんと大祭の保存会の皆さんと大井神社の方たちが決めている。直接的に、「あれやります」「これやります」と言えないのは、行政が関われる部分のというのを直接持っていないから。それが言葉で、「ああやりました」、「こうやりました」ははっきり言えないのは主体が行政側にならぬから。前夜祭にしても、市長になってすぐの判断だったが、前夜祭をやめた。大きなご批判もいただいたが、実際私が引き継いだ時、前夜祭をこれからやれる状況ではなかった。国宝級の長唄の師匠さんを招くには、相当早くからの予約が必要で5月、6月に言われても10月にみんなが顔をそろえると言うことはできない。実際に準備不足でとてもやれる状況ではなかった。だからやめた。だけど、その前夜祭についていた400万円の予算をお祭りの方に上乗せして使っていたということとした。今回もお金は、大祭の補助金に上乗せしてお支払いをしていると思う。行政の方も、お祭り広場をどうしたらいいのかとか、行政が何ができるのかということと一緒に考えているが、我々は委員会の中の一員でしかなく、なかなか伝統を重んじる方々、あるいは観光客を優先的に考えたほうがいいという方々、色々な考え方があって、本当にギリギリまで聞</p>

		<p>に合わない。今回は2年前から準備に取り掛かっている。いまだに本陣入りの場所だとか、お祭り広場やお休み処の場所も決まっていないという状況。まつりに命をかけている人たちも大勢いるので、島田市内全域での島田大祭になるといいが、これまでの色々な経緯があって、それぞれの地域は、同じ時期に違う祭りをやっているという状況なので、どうしたら島田全体の祭りになるのか考えなければいけない。島田全体の祭りになれば、それぞれの街が口上、しきたりにこだわって、自分たちの文化や伝統を守ってきた。全体の祭りにしてしまうと、それぞれの街の伝統やしきたりがどうなってしまうのかということもある。本当に究極に困らないと変えていけないと思っている。自然災害によって変えられるか、どうしようもなくなって極限まで行って変えられるかどちらかである。痛みを伴うことに対しては、人類はずっとそうだった。今年一つ変えたことは、学校に協力を求めた。小学校、中学校から積極的に子どもを出してほしいと要請した。3年前にも同じことをお願いしたら、酒の出る席に子どもはダメだと言われ断られた。子ども達を入れることによって、子どもたちが大きくなったときに祭りがつながっていくから、子どもたちの面倒を是非お願いしたい。</p>
13-1	<p>■子どもさんが横断歩道を渡っていて事故に遭うニュースがあるが、アピタのところを見ると、車と歩行者が分離されている。市内でもいくつかあると思うが、これから先、信号機の変更はあるのか。</p>	<p>●歩車分離という信号で、私が知る限りでは、アピタ、市役所、二中の手前の交差点にある。警察の方針としては、車を全部止めて人を渡すということは今後は広げていきたいという考えをもっているようだ。交差点が大きければスクランブル交差点といって×の形をした交差点になるが、市内の交差点はそれほど大きくないのでスクランブル交差点にはなっていない。交通量の多いところには歩車分離式を導入することを警察では考えているようだ。</p>
13-2	<p>■アピタのところはスクランブルにしてほしい。2段階で歩行者が渡らなければならないので、あそこは車の量が多いので早急にやってもらいたい。年寄りも2回になってしまう。</p>	<p>●自動車が渋滞をしない、歩行者が渡れる時間といったことを考慮して、信号の長さを調整していると思う。どういうふうに変えていくか分からないが、生活安心課を通して警察にご要望のあったことを伝える。【検討事項2】</p>
14-1	<p>■うちの妻が右折の車にはねられ、一次意識不明で、今は自宅療養となっている。相良街道（踏み切り付近）で歩道があるところに停止線があったり、縦にも横にも横断歩道がない。あそここの場所は、歩行者が全く見えない。町内にもそういった危険な箇所があると思う。全体的に警察がやっているからいいのではなくて、都市計画の中で歩道を拡幅したり、全体的には市の方から警察の方に要望事項を出してもらいたい。</p>	<p>●私からも話をしておくが、皆さんの力が警察を動かすには一番大きい。写真を撮ったり、こういう現状だということを町内からあげていただくと、大きな力になって警察に伝わると思う。横断歩道も信号機もつけてほしいという要望はすごく多い。27年度で新しく信号機が設置されたのは2か所だけ。警察もすごく吟味しているというか、よほどでないといつてはくれないという現状がある。</p>
14-2	<p>■お金がないなら1つでも（信号機をつけてほしい。）。</p>	<p>●私がお金がないといっているように聞こえたのなら申し訳ないが、お金がないわけではない。使うには使うとき、使うところ、始末するところ、これやっていると、健全な財政がなくなっていくから、我が子の時代、我が孫の</p>

時代にその人たちが、自分の街をどうしようといったときに、投資的経費が使えるような、自分たちで投資ができるような街でなかったら、若い人も住まないと思う。雇用を創るとともに、そういうことをやっていきたいと思っている。

●4月になったら、街中に産業支援センターを、街中の島田信用金庫の近くに整備する。地場の中小企業の支援ということで、創業支援、起業支援もそうだが、様々な補助金や専門家の指導を受けられるような場所をつくっていきたい。民間からセンター長を置いて、島田市、島田信用金庫、商工会議所、商工会の4者の連携の中で、それぞれが職員を出して、そこで島田市内の企業の皆様の支援をしていく。内職等をやりたいという方、若い人はテレワークといって、パソコンの入力のアルバイトといった仕事も増えてきているので、そんなこともゆくゆくは御紹介できるようにしていきたい。もちろん島田市内で新しく店舗を構えたい、今の仕事だけでは十分ではないので、副業をやりたい、そういったお話も相談いただけるような場所を4月の中旬にはオープンできるようにと思っている。

※ 回答は11-2以外は全て市長から回答した。

④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
2-2 検討事項 1	<p>●原則としては御町内の対応をお願いをしているが、皆さんに危険があるということでも困るので、一度職員に見に来させる。皆さんにやってもらうことがあるのかも含めて現場を見てからの判断とさせてほしい。【検討事項 1】</p>	<p>財政課において、造園業者に樹木の伐採と剪定に係る見積もりを依頼します。金額にもよりますが、おそらく今年度予算では残金もなく厳しい状況なので来年度予算で対応させていただきます。</p>
13-2 検討事項 2	<p>●自動車が渋滞をしない、歩行者が渡れる時間といったことを考慮して、信号の長さを調整していると思う。どういうふうに変えていくか分からないが、生活安心課を通して警察にご要望のあったことを伝える。</p>	<p>お話のありました交差点については変形の交差点であり、ヒヤリとすることが多いことから、歩行者が巻き込まれることがないように島田警察署において、歩車分離信号機を採用しました。</p> <p>今回いただいたお話の内容は島田警察署に伝えました。</p> <p>警察署からはこの歩車分離信号機設置にあたり、子供や年配の方が1つの横断歩道を渡るために十分な時間を設定したとのこと。決して2つの横断歩道を渡り切ることを想定したわけではないとのこと。</p> <p>警察署は車両の渋滞状況を考慮して信号の待機時間を調整していますが、これは交差点に進入する車両（自転車を含む）及び歩行者の両者の安全を確保するためであることをご理解ください。</p> <p>この交差点の横断歩道を利用する近隣の皆さまにおいては、警察署の設定した規制に従い、1度に渡り切ることなく2段階で安全に通行いただきますようお願いいたします。</p>